

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第6号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予報第6号

平成28年8月1日
徳島県

I. 普通作物

普通期水稲

穂いもち(8月1日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が66.7%, 発病度が7.8で, 平年(47.3%, 4.8)に比べてやや高い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少なくと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 使用基準を確認の上, 粒剤の場合は出穂10日前までに, 液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。また, 出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では, 発生圃場率が33.3%, 発病株率が8.2%で, 平年(41.0%, 11.7%)並の発生である。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少なくと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況は圃場によって大きく異なるので, 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前防除を追加して, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では, 発生圃場率が63.3%, 株当たり寄生虫数が0.35頭で, 平年(49.6%, 0.15頭)に比べてやや高い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少なくと見込まれている。気温は平年並か高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件で

ある。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が0.3%、株当たり寄生虫数が0.00頭)。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、適期防除に努める。

コブノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率が10.0%と、平年(20.0%)に比べてやや低めの発生であるが、被害株率は1.1%で、平年(1.9%)並の発生である。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 現在葉巻内で加害している老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低いので、次世代の若齢幼虫を対象に防除する。防除適期は粒剤を施用する場合は発蛾最盛期、水和剤等を散布する場合には発蛾最盛期の7日後である。
- (2) 過肥田や肥料切れの悪い湿田で多発する傾向があるので、窒素質肥料の施用は控えめにする。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、捕獲地点率は66.7%、地点当たりの捕獲虫数は6.4頭であり、平年(75.0%、8.9頭)並の発生である。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なく見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認の上、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が93.3%、葉の被害度が15.9で、平年(98.6%, 19.4)並の発生である。
- (2) 7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)は、ハスモンヨトウはほぼ平年並に推移し、シロイチモジヨトウは平年より低めに推移している。
- (3) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

[フェロモントラップ誘殺数]

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平年	2016年	2015年	2014年	2013年	平年
7.1	47	23	8	19	41	16	11	32	73	30
7.2	21	22	10	20	42	70	20	63	141	58
7.3	26	15	16	43	44	33	151	50	305	117
7.4	24	20	11	21	39	23	113	54	146	120
7.5	69	34	15	47	66	98	73	33	181	157
7.6		33	34	101	67		41	114	870	249
8.1		59	47	44	84		72	133	964	254

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率が6.7%、寄生葉率が0.1%で、平年(25.4%, 1.7%)に比べて低い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

II. 果樹

カキ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率が83.3%と、ほぼ平年(68.3%)並の発生であるが、発病葉率は3.5%と平年(8.4%)に比べやや低い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今春、病斑が目立った園では、防除を徹底する。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 7月における勝浦町および上板町の予察灯へのツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシの誘殺数は,ともに平年に比べて低く推移している。

[予察灯へのツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
7.1	7	51	31	32	60	2	6	88	2	12
7.2	2	96	67	49	65	1	31	43	12	12
7.3	3	179	38	25	74	0	38	19	5	10
7.4	4	83	58	15	53	1	19	14	3	8
7.5		73	64	3	47		13	11	1	6
7.6		43	98	29	75		11	11	6	6
8.1		17	468	99	124		6	3	4	5

[予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
7.1	1	45	164	11	44	1	13	69	1	23
7.2	2	59	112	9	52	1	116	264	10	54
7.3	0	162	41	3	52	1	40	125	9	55
7.4	2	251	18	6	33	6	51	59	10	81
7.5		231	22	3	41		33	52	7	85
7.6		396	87	15	56		43	47	8	43
8.1		259	194	12	85		25	13	8	27

(2) 7月28日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く,降水量は平年並か多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので,園内を巡回し飛来に注意するとともに,飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性なので,薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので,広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. 野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で,発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では,発生圃場率が22.2%,発病葉率が1.8%で,平年(37.9%, 2.8%)並の発生である。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く,降水量は平年並か多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると,薬液が弾かれ防除効果が劣ってくるので,薬剤散布にあたっては,展着剤を加用する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率は55.6%と、平年(62.7%)並の発生であるが、寄生葉率は1.6%、平年(3.7%)に比べやや低い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、散布むらのないように丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期には、発生圃場率が4.4%、寄生新梢率が0.2%)。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率は44.4%と、平年(31.0%)並の発生であるが、寄生葉率は6.3%と平年(3.7%)に比べてやや高い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、50株当たり寄生虫数が3.6頭で、平年(7.9%、0.1頭)に比べて高い。
- (2) 7月28日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、発生初期に徹底防除する。

(2)性フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)7月後半の巡回調査では,発生圃場率が55.6%と,平年(31.3%)に比べやや高めの発生であるが,被害度は,1.1で,平年(0.8)並の発生である。
- (2)7月28日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く,降水量は平年並か多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1)7月後半の巡回調査では,発生圃場率が88.9%と,平年(98.9%)並の発生であるが,葉の被害度は3.6と,平年(19.0)に比べて低い。
- (2)7月28日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は平年並か高く,降水量は平年並か多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は発生源となるので,絶対に圃場周辺に野積み・放置せず,速やかに処分する。

IV. その他

- 1)防除にあたっては,圃場をよく観察し,適期を逃さないようにして下さい。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し,周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 3)水田に薬剤を使用したときは,7日間以上止水して下さい。

予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。